

消費者と提携し地域農業を守る

# 下郷農協



2014

2

No. 630

February

下郷の各地で行われた

豊作祈願する

「どんど焼き」

(写真は一月十二日樋山路中組地区)



# 農協が農協として残れるか。

市場原理主義に流されるのか。いよいよ山場

代表理事組合長 矢崎和廣



## 不透明感増すTPP交渉

農協など農林水産業に関わる多くの組織が反対運動を展開しているTPP問題がいよいよ大詰めを迎えています。

政府自民党は、先の参議院選挙で「農産物の重要五品目は必ず守る」と公約して選挙に大勝しました。

TPP交渉はその後、関税率の関係などで米国を中心に交渉がまとまらず難航しています。

公約が守られない場合は即交渉からの離脱を判断すべきですが、政府はその判断をしない模様です。

二月二十二日からはシンガポ

ールで閣僚会議が予定されています。

その時にいきなり「政治決断」として公約を平気で破り、妥結する可能性は十分秘めています。

これまで米国いいなりでやってきた政府が、関税撤廃を主張し強硬姿勢を崩さない米国に「安易な妥協はしない」態度を取れるのか、いよいよ交渉の行方が不透明感を増してきました。

四月にはオバマ米大統領の訪日も予定されており、二月下旬から三月が山場と考えられます。

JAグループあげて最後の最後まであらゆる団体と連帯を強め、TPP阻止を目指していきたいと思っています。

## 農協改革でJAに圧力

一方で、TPPをにらんで様々な議論も進められています。

特に、その槍玉に挙げられて

いるのが「農協改革」です。

農協は、自民党にとって選挙の大きな支持基盤でしたが、二〇一二年の衆議院選挙で農協に頼らなくても勝てたことが二〇一三年の参議院選挙でも証明された上に、民主党が政権を取った二〇一〇年には農政連として自主投票とした事も要因となり、農協への反発も大きくなっています。

そのような中で、政府の「規制改革会議」や「産業競争力会議」の場で農協改革が議論され、六月を目途に方向を決める模様です。

そこでは、農協が行ってきた組織改革と変容を端的に言えば、『農協の「金融機関化、地域組合化、株式会社化」の進展である。すなわち、①信用事業を先行させた農協改革による農協の金融機関化と全国連支配の強化、②准組合員・非農業者の増加による地域の組合としての性格の強化、③事業毎の子会社化・株式会社化（協同組合的性格の希薄化）の進展である。これらはある意味脱農化の進展でもある。』との論調です。

以上の様な、農協の事業・組織の大幅な変貌を踏まえ、今日において農協の本来的に果たす役割などを検討する事を推し進めています。

そして、「農協改革」を通じ、TPP交渉でもJAの抵抗を封じ込めようとしています。

## 市場原理主義でなく、

## 協同組合として

政府は、日本の農業や協同組合を市場原理主義に任せ国際化の名のもとに、安ければそれでいいのかという、人の命や健康にかかわる安全性（食料自給率など）のためのコストが切り詰められているという重大さに気づいていないのです。

いよいよ農業に関わる全ての人々が、「組合員が主人公の農協」を目指すのか、政府の諮問機関が指摘している現状の農協の方向を突き進むのかが問われる時が来ています。

下郷農協は、これからも協同組合として組合員が主人公の農協運営で、農業を守り、地域を守る運動を続けていきます。

新潟の雪国魚料理屋での冷蔵庫の工夫・使用



清水正嗣 教授  
名誉教授 大分大 大分大 大分大 大分大  
大分大 大分大 大分大 大分大  
大分大 大分大 大分大 大分大

になるときりがなくなるので、魚貯蔵、料理の話に入ろう。

二、防雪用屋根・雁木付き歩道

魚の卸、小売り、そして料理屋を兼業した平沢金太郎祖父にとっては、取り扱い魚を鮮度を保つて如何に長く保存するかが、当時の大きな課題であった。

一、新鮮降雪を鮮魚保存の冷蔵庫に使用

清水が小学生位になって、母実家の新潟に行くとき、東京っ子からみると第一に、新潟の大量降雪が珍しく楽しかった。与板町の玄関前通りには、雁木という片側屋根付き通路が作られ、反対側に行くには、雪のトンネルも作られたりしていた。前日夕方には皆無であった雪が、一晩で子どもの背丈くらいの高さにまで積もっているのを見た時は本当に驚いた。大降雪があつても雁木のお陰で、徒歩で歩くことができた。さもなくば、歩行補助用の幅広のスキーを用意せねばならなかった。雪の話

三、雪冷蔵庫の実際

このような雪が、近隣の小さい森、林の間にたくさんたまわっていて、夏でも積もった雪がそのまま残っていた。大事な事は、それら雪の塊を店の板の間の下にセメント塗りの壁をもつた一〜三立方メートル位の大きな雪貯蔵所を造って、冷蔵庫として使うことであつた。気温に応じて、ほぼ定期的に山の降

雪貯蔵地から、大きさ一立方メートルくらいに切りだした雪の塊を、背負って雪配達をしてくれる人がいた。上述の床下雪貯蔵所が冷蔵庫の役割をしてくれていた。この雪は、現在の販売氷と同様に、食用にもなるから、鮮魚の冷蔵には十分役立つものである。母が甘いモノ好きだったから、夏で暑い日には、その雪の小塊を取り出して井に入れ、砂糖をかけて冷やし氷として食べていた。母親が美味しい、おいしいといつて食べているから、子どもも真似をして、おいしい雪氷を沢山ご馳走になったが、おなかを悪くした事は一度もなかった。大切なことは、祖父の店の板の間の下に、それら雪が入るように設計し、必要な大きさに土を掘り出し、上述のようにして、モーター不使用の冷蔵庫完成となる。その使用法は、予定された必要面積に応じ、新鮮魚貯蔵用と、食用転用区域とに大別し、実地使用に供する。

四、釣り魚保存に

雪冷蔵庫利用の初経験

小学生になる前から清水は釣りに興味をもっていた。東京にいた時すでに父にねだって、釣り堀に連れて行ってもらった。父はつれないのに清水が二匹の小魚を釣った記憶が残っている。新潟でも、小学校入学以前に祖父に頼んで、暑い夏の午後、店の裏近くにあつた信濃川の支流、黒川へ釣りに連れて行って貰つ

た。小学生以前で、本を読まないうから、何でもよいから釣りをしたいので、道具も何もかも祖父に頼んで用意された釣竿を下ろした。暑い夏の日中であつたから、祖父には迷惑な願いであつた。孫が何を釣るか見るだけで、まことに迷惑な頼みで、今反省と感謝の意でこれを書いていく。祖父は初の男孫をよほど可愛く思ってくれたのであろう。夏の太陽の下、一〜二時間頑張つたが、此の時も清水のみが小魚二匹の釣果で終わりとした。魚の名も解らぬまま、家に帰り、上述の冷蔵庫の魚置き場に大切に名も知らない小魚を並べた。本も読めないのだから、魚名、種類を記録しようなどの欲もない無知の子供だった。

夕方になって、釣った魚をもう一度見たいと店の人に云つたら、雪の冷蔵庫からすぐに出して来てくれたので驚いた。沢山並んでいる魚の中から、清水が釣った見ず知らずの魚をすぐに見つけて、見せてくれたからである。沢山の魚が並ぶ中で、初めに見てもいないのに、なぜ間違わずに出せたのかと。釣りたいだけの欲だったから、料理まで頼めなかったのは止むを得ない。でも、清水が新雪冷蔵庫利用経験を残せたのは凡児の大きな自己満足であつた。

## 栽培品種の拡大で増産めざす

### 健康米組合が総会

一月二十五日（土）午前九時から、農協本所会議室において、健康米生産組合（山崎和美組合長・会員二十二名二法人）の平成二十五年度総会が、会員十七名（委任状含む）出席のもと開催されました。

総会では、山崎組合長が「安心・安全な米作りに少しでも取り組みやすくするため、組合で作付け可能な品種の選定拡大を議案として準備しているので、積極的に意見を出してほしい。また、これまで取り組んだ稲作



体験交流等で、新たな商品利用の輪も広がっています。

あるので、次年度も産直消費者と交流を深めながら、生産にも元気が出るよう組合活動を強めましょう。」とあいさつ、来賓として越尾金融理事・部長が「T P Pの動向が懸念されるが中山間地農業を守るためにも安心・安全な農産物の生産に励んでほしい」と祝辞を述べました。

議事では、選任された議長の進行に基づき会員から建設的な意見や要望が出されるなか、平成二十五年度活動報告・収支報告、平成二十六年度活動計画・収支予算を承認、また、健康米として栽培できる新たな品種の選定拡大を図り新規生産者の加入促進や増産に向けた規約の改正、役員体制の確立等について審議・決定が図られました。

(f)

## アイタルフードクッキングを満喫

### 産直大地の会久留米が料理交流会

二月二日に「えーるピア久留米調理室」において、産直大地の会久留米（緒方忠臣代表）の料理交流会が会員十二名が参加して開かれました。今回は下郷・大島在住の増田直人さんを講師に迎え、ピザ・パン料理を教わりました。

増田さんは、昨年の二月に下郷・大島へ家族三人で移住。自宅でアイタルフード・レストランの開店をめざして準備中です。

下郷農協からは健康米組合の組合長・山崎和美さん（合鴨米生産者）と下郷・金吉在住で、新規就農をめざす中田充昭さんが参加しました。

アイタルフードの語源はVital（ヴァイタル）。生命力に溢れる食べ物という意味からジャマイカで生まれた菜食のことをItalian（アイタル）Foodと呼ぶそうです。ベジタリアンのように、アイタルの幅も人によって様々ですが、



動物性の食材は一切使用しません。

料理会のメニューは（主に野菜とスパイスを使います）

「お豆と根菜のカレー」（豆が効いていることと、野菜それぞれが味がしつかり出ているカレー）  
「おからのタブーリ」（生野菜のサラダに炒ったおからなどを添えたもの）  
「米粉パコラ」（米粉とスパイスで作った衣をつけて菜種油で揚げた野菜の天ぷらのようなもの）  
「琵琶の葉Soyチャイ」（琵琶の葉を煮出してスパイス類等を入れ、豆乳を加えて作る）の四品を作りました。

産直大地の会の参加者は、増田さんの説明や料理を熱心に見て聞いて、それからグループに分かれて料理しました。同会会長の緒方忠臣さんは「本格的な料理教室で参加者も大満足です」と話していました。



いまなぜ一戸城か

一戸城は、江戸時代から鎌倉時代までさかのぼる下郷の歴史の中心にありました。

一戸城は、下郷のシンボルの一つに数えられるべき文化遺産であると思えます。それにしても、下郷の人たちの間にそのような意識は希薄のようです。そう言っている私もつい最近になってそう思うようになったので、大きなことは言えませんが、下郷小学校の校歌には「樋桶の山の峰遠く」と、樋桶山は下郷の象徴のように謳われているのに対して、一戸城はアグリキヤッツ（下郷小学校女子グループ）が歌う『私の町・下郷』に「一戸城は難攻不落の城、武士たちの夢の跡」と出てくるだけ。これではあまりに寂しいですし、もっともっとシンボルとしてア



登山道は整備されています

ピールできる価値が一戸城にはあると思うのです。

今年、NHKの大河ドラマ「軍師 官兵衛」も始まり、黒田官兵衛孝高（後の「如水」）ゆかりの地として、「一ツ戸城址」にも注目を集めるためのまたとない絶好の機会です。

私にはこのような思いがあったので、一戸城を「下郷入口」としました。これからその理由について書いていきたいと思います。

まず、何回も登場していただくことになるお二人を紹介します。「中間 統胤氏」（以下「むねたね氏」と呼ぶ）と「溝渕 芳正氏」（以下「よしまさ氏」と呼ぶ）です。

むねたね氏は、一戸城の最後の城主（領主）。後に黒田官兵衛に従い「黒田六郎右衛門統胤」と名乗ります。

よしまさ氏は、一ツ戸集落の方で「豊前一戸城物語——戦国中間史——」および「改訂 豊前一戸城誌」の著者（以下「一戸城誌」と呼ぶ）であり、郷土史家。下郷農協の元組合員、下郷農協創立に尽力された私たちの大先輩の一人です。下郷農協本所に貼り出されている物故者名簿にもその名があります。そして私が「いまなぜ一戸城

か」とこだわるもう一つの理由は、これまで、下郷を含む耶馬溪が前述の黒田官兵衛の領地となる前までは、津民地区・川原口の「長岩城」の城主・野中氏の領地であったと考えていました。しかし、私たち下郷の人々の祖先は黒田官兵衛・長政親子によって滅ぼされた野中氏の領民であったと思ひ込んでいました。ところがどうもそうではないようです。このことが「下郷」という地名の由来にも少なからず影響していると思われるのです。



本丸跡の石段

さて、私は昨年（二〇一三年）の大晦日の午後、一人で一戸城跡に登りました。もし山頂の東向きに開けた場所があれば、今年、かつての一戸城主・むねたね氏のように一戸城の本丸あたりから初日の出を拝みかけたからです。しかし、山頂にも木々が茂っていてその目的は断念したのですが、石垣や石段、石塁らしき跡を見て、遠い昔に想いを馳せることができました。次号では一戸城も大きく絡む

「下郷」という地名の由来」に迫ります。

※参考資料（ここまで私の言葉で述べてきましたが、参考にさせていただきます資料の件を紹介します）

●『一戸城誌』（溝渕芳正氏著）  
「わが耶馬溪町には、鎌倉時代から戦国末期にかけて二人の豪族がいた。一人は長岩城に拠った野中氏。今一人はここに書いた中間氏である」

●『協同の原点を求めて 下郷農協物語』（渡辺成美氏著）

「（溝渕芳正氏）下郷農協を発足させるための設立準備委員会ができたとき、私は部落の代表として、この協議会に出ました。：（中略）：私は、奥登さんが身を粉にして、村人のためになる農協を作ろうと努力していることを良く知っていましたし、下郷農協のあるべき姿について、われわれの設立準備委員会が出した結論にも満足していました。」



山頂の標高を示す看板

## 組合員の皆さまへお知らせ ～組合員資格の確認について～

いつも下郷農協をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。  
組合員の皆さまに組合員資格について組合加入当時よりご変更がないか、ご確認をお願いいたします。

1. 氏名・住所の変更のあった方
2. 正組合員から准組合員への資格変更
  - 農業を辞められた方
  - 1年のうち90日以上農業に従事しなくなった方
  - 農業経営を辞めた法人
3. 准組合員から正組合員への資格変更
  - 農業を始めた方
  - 1年のうち90日以上農業に従事する方
  - 農業経営を始めた法人
4. その他の変更
  - 相続による名義変更が必要な方
  - 農業を辞めた方で農用地利用集積計画にもとづき利用権を設定し、農用地利用改善事業実施団体の構成員となっている方

上記に該当する組合員の方は、下郷農協（管理部）までご連絡を下さいますよう、お願い申し上げます。

2014年2月

※組合員資格につきましては、当農協定款第12条に基づきます。

### <お問い合わせ先>

下郷農業協同組合（管理部）  
TEL:0979-56-2222

食料品や日用品などを電話一本で、

しゅんさいかん

『旬菜館』が無料配達してくれます。

旬菜館 電話 54-3555 へ

農産物の自給と無料配達（お取り寄せ）を上手に組み合わせ、豊かな食生活を送りましょう。（買い物が困難な方が対象です）

# 理事会だより

一月二十二日、第十回定例理事会を開催しましたので、議案および協議内容の一部概要をお知らせします。

## 報告事項：JA全国監査機構期中監査結果概要

よびJAバンク資産精査結果概要について

## 第一号議案：十二月決算承認の件について

## 第二号議案：JAグループ大分経営強化対策事業に係る担保提供について

## その他

・報告事項のJA全国監査機構期中監査結果概要およびJAバンク資産精査結果概要については、二月二日～六日の五日間行われた監査機構の期中監査で、本決算を見据えた財務状況や内部統制等の検証結果について一月十四日に事前講評および期中改善指示書等の交付があり、改善指示事項について概要の報告が行われました。

また、同時期に行われたJAバンク資産精査結果概要について、併せて報告が行われました。

・第一号議案の十二月決算承認の件については、事業利益一〇、五二五千円の計画に対し一、九〇一

千円で八、六二四千円の未達成となりました。事業利益は計画対比で、収益部門のうち農産七七六千円・信用六九一十千円・惣菜五二六千円等が達成、購買三、七二四千円・販売商品二、二〇二千円・診療所二、〇七二千円・食肉二、〇六七千円等が未達成となりました。

・第二号議案のJAグループ大分経営強化対策事業に係る担保提供については、同事業に関する中央会借入金担保に供している当JAの信連定期預金を平成二十七年二月二十七日まで引き続き担保提供する事が承認されました。

・その他事項では、今年度三回目の一斉集落常会の開催を県常例検査の日程の都合により、三月十一日（火）・十二日（水）に行う事としました。

# 「ふれあいの店」より

## 3月のポイント2倍セール3月8日(土)・22日(土)

2,000円以上お買上げの方は2,000円につきポイント2個です。直通Tel0979-56-2225

# お願い

ガソリン代、新聞代、ガス代等を通帳より自動引き落としされている方は、残高不足で引き落とし不能にならないようご注意ください。

## お便り募集!!

中津市耶馬溪町

大字大島二一五―四

下郷農協 農協新聞係宛

またはメールで、

masutani@simogonokyou.or.jp

